



学校づくり、を提言しつつ、地域社会から愛され、信頼される学校づくりを目ざして、生徒・職員一丸となって努力をしまいいつていくところでございます。お陰様で少しずつなりとも、その芽ばえを感じつつあることを大変嬉しく思っております。

施設整備面においても、ここ二・三年来、校舎の外壁塗装・窓枠の改修・トイレの水洗化・便所棟の新改築・第二体育館建設予定等々充実しつつあることも大変喜ばしく、これも皆様方のご協力の賜と深く感謝を申し上げますと同時に、中味の一層の充実を図らねばと心いたしております。

御承知のように、本校は県下有数の総合高校でございますが、平成三年度からの生徒の急減現象や社会の変化・時代の進展に対応した職業教育のあり方等をめぐって、本校の将来像についても大きな課題を抱えているわけでありませう。

同窓会をはじめとする地域住民の皆様のご示唆を頂きながら、誤りのない方向づけをしてまいり所存でございます。

同窓会のみならずの発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げます。御挨拶といたします。

副会長 上條弥太郎 (21年卒)

今回はからずも副会長の重責をお引受けすることになりました。終戦時に卒業し以後40年も母校とは無縁の生活でありましたので戸惑いの連続であります。しかし乍らお引受けした以上任期一ぱい頑張りたいと思っております。

母校と戦後幾多の変遷を経て今日の発展をみておりますが今日また、本校の中心的存在であった農業科をはじめとする職業学科の再編成など重要な問題をかかえてお

### 新旧役員の御挨拶

ります。

また同窓会として80周年記念事業なども近く計画するなど多く諸先輩・会員各位の協力がなくては達成できないことが多々ございます。よろしく願い申し上げます。

副会長 滝沢八重子 (19年卒)

昭和の時代に後髪をひかれる様な複雑な気持で平成元年を迎えました。平成の年号にふさわしく、母校塩尻高校そして同窓会の益々の御発展を御祈念申し上げます。日頃同窓会には疎遠な私でした

が塩尻高等女学校卒業生という様な事で、又地元の塩尻に住んでいくという事が引き金となって副会長の重責を微力ながら務めさせて戴いております。とかく女性は母校又は同窓会に関心はありながら、さて総会となりますと出席率が悪く、何とか盛り上げる方法はないだろうかと事務局共々相談の結果、各支部に女子部を設け総会出席の糸口となつて出席者が多くなり喜ばしい限りです。又、更に日帰りバスハイクを計画し、年代を越えた同窓会の雰囲気にはひたり、皆様

持ちまへの唄・踊り等を御披露戴き、その日ばかりは身も心も洗われて青春にもどり交流を深める事が出来ました。

事務局の多大な御支援のお陰で、一昨年は安曇野へ、昨年は蓼科高原へ楽しい思い出を残す事が出来、本当に有難うございました。

負担を感じない身近な点に目をむけて、女子部活動へ皆様の御協力を切に願う者でございます。

副会長 中島みゆき (28年卒)

昨年より大役を仰せつかり、今

までは無関心でございましたが、同窓会に出席させていただく機会をえました。

顧みますれば、卒業後三十有余年時代の流れと共に、校名も変わり昔の面影はございませんが、懐かしい母校に足を運ばせていただき、先生方との交流ができましたことを嬉しく思っております。

又、会員皆様方の大変なご協力で、立派な桔梗会館もできました。この会館に飾られた歴代の同窓会長様のお写真を拝見することができまます。近く八十周年を迎えようとしている、長い伝統のあるこの同窓会を守つてきて下さった、先輩皆様のご尽力に改めて御礼を申し上げます。また、責任の重みを痛感しておるところでございます。この会館に老若が集まり、同じ学舎であったことの思い出を、語りあえる喜びは同窓会ならではの集いでございます。

女子部事業も年毎に、参加者も増え徐々に盛り上つて参りました。一つ一つ足跡を残してゆかれますことを嬉しく思っております。

同窓会の活動を通じて、伝統ある母校への力添えになればと思ひ頭張つて参りたいと存じます。

前会長 小松 康朔(27年卒)

同窓会報の発行に際し、心より敬意と感謝の意を表します。

紙面をお借りして、同窓会長退任のご挨拶を申し上げます。

塩尻高校創立七〇周年記念事業が同窓会を中心に、学校側・PTA・地域関係者の御協力によりまして盛大に行われました事は記憶に新しい感じでございますが、すでに後わずかで八〇周年を迎えようとしています。

私はこの七〇周年記念事業の時より広丘支部長として任に就き、同窓会館建設を初めとした大事業のため多額の募金活動にたずさわって参りました。

その後、塩原穂並会長さんから塩原俊治会長さんとなり、その副として補佐し、塩原会長が中途で病死されましたので会長代行として努めて参り、昭和六十一年より正式に会長に就任し、昨年九月に吉江新会長にバトンタッチをしました。

この間、学校長として清水英樹・宮沢誠・足助治男・塩沢久夫各先生にお世話になり、又PTA三役の皆様、特に同窓会顧問の皆様、支部長、役員の皆様方には大変御

協力をいただきました事に對しまして心より敬意と感謝を申し上げます。

さて経過を振り返って見ますと有限会社として発足しました同窓会館桔梗会を学校と有機的に連携の取れる財団法人化のための努力、又そのため再度の募金活動、そして殿堂の出来た同窓会の女子部を含めた組織の強化充実、親睦を深めるためのソフトボールの支部對抗試合の事業、又、反面学校施設の増強のための陳情、野球部を初めとしたクラブ活動の援助、そうしてやがて来る生徒数の急減期に備えての農業科の在り方の研究等で県教委に向いたり、又内部で会議を開いて参りました。

前会長 小松恵美子(26年卒)

今後これらの問題等も併せて同窓会の益々の発展と母校の発展をご祈念申し上げ、尚八〇周年記念事業が成功する様御祈念申し上げます。あいつと致します。

にバスハイクが企画され昨年の集には十数人の先輩も参加されて一緒に勤勞奉仕をした同地区の方も見え当時を懐かしく回想しました。入学は終戦の年その五月には防空壕を掘り中へ避難して碧空に四本の白線をひくB29に感嘆の声をあげ校長先生にお叱りを受け六月には上級生に混っての田植―疎開生も多く級は40名↓60名にふくれて居たので初体験の人もあり植後をみると真に見事でした。或時は仲

町通を祖父父母の餅や紬でリフォームした服をまとい、草履や粗末なズック靴で閑愁に通い数十人ずつの人力でロープをひき木の株を幾つか抜いたりもしました。あの時木陰でいただいた自家製のお焼酎―中味は甘藷―の味は忘れ得ません。そして終戦、教科書の不都合な所を墨でぬり新憲法が發布されて六三三制となり個人の人格が尊重され男女共学も一部入り戸惑いながらも自由な若者らしい六年間を過ぎ事が出来ました。今では戦時故に都会の友あり引揚の友ありバラエティに富む経験が出来たこと感謝して居ります。

神林支部長 浅田清人(13年卒)

今年の新元号に平和の願いを託する平成の真新しい響きの年に、塩尻高校同窓会報が創刊できますことは誠に嬉しく思います。

白雪に輝くアルプス連峯を前景として桔梗ヶ原の古戦場の一角に明治四十三年八月東筑摩郡立南部乙種農学校として発足し、大正の初めに県立東筑摩農学校甲種となり、昭和二十四年両校統合して塩尻高等学校となり、昭和二十四年創立七〇周年記念を迎えて、一七、〇〇〇人以上の卒業生を送り出し、地域社会の発展に活躍されて居られることは御同慶の致りであります。

母校創立七〇周年の記念事業として校庭の南に同窓(桔梗)会館を建設して頂き、先輩の方々の努力に感謝して居ります。

桔梗会館の健全な運営と維持のための募金には多分な御協力を頂き有難うございました。

当支部も平成の年にあやかって、若返りをはかって女子部の結成、ソフトボール大会等の行事に出席出来るように支部の強化をはかりたいと思います。

# 祝 同窓会報創刊号

同窓・県議・市議

県会議員 林 美郎

新しい時代にふさわしく同窓会報創刊号が発行されることに對し心からお祝い申し上げます。

激動の昭和時代が終り、平成の新時代となり意味深い年号に合った時代になる様に祈り又期待しております。塩尻高校も幾多の変遷を経て発展し同窓会活動も行動的となり関係者皆様に深い敬意を申し上げます。

私は昭和十年に經濟大不況下に塩尻農学校を卒業し、十三年に千葉高等園芸学校(現千葉大園芸学部)を卒業し、満州国の役人となりました。二十年六月現地召集を受け終戦が一日遅れたら恐らく戦死していたでしょう。その後、零下四十五度のシベリヤで捕虜生活をし毎日死の恐怖の中で生き延びて二十二年五月帰国しました。農学校の先輩後輩の御世話で経済連の園芸技術員になりました。常に現在生きてい

る幸せを反省し死を賭して働きました。三十八年四十四才の若輩で園芸事業の発展と安定のため県会議員となり以来連続七期当選し副議長も勤めました。

## 挨拶

県会議員 三沢 光広

同窓生の皆様、友人を多く持ち相互に協力し合い、人生を一步でもより良く前進しましょう。待望の同窓会報がみなさんの御協力で「あらたな時代―平成元年」にふさわしく同窓会員の意欲を表徴するものとして発行されたことをうれしく思います。日頃、同窓会員のみなさんの大変な御支援・御鞭撻に厚く感謝申しあげ、これからも一層の御指導御叱正のほどよろしくお願い申し上げます。さて高校をめぐる環境は今、大きく変わりあらたな方向確立に動いております。つまり県産業教育審議会答申による高校職業教育分野の再編成などが検討されはじめているからです。これからは益々魅力と特色ある教育、時代を先取りする学習内容の構成に大きな関心をもたれる時代です。塩尻高校は誇るべきたくましく重厚な伝統、県下でも屈指の園芸農業地帯、有

数な県的試験場など、かけがえのない学習環境にめぐまれております。これらを最も有効且適切に活用し塩尻高校の歴史を尊重しつつあらたな発展の構想を創造していかねければならないときです。学校・同窓会・PTA・そして市当局はじめ学校を包む地域の連帯を強め協力を求めて力強く前進する 때가きております。みなさんとともに全力をあげることをお誓いいたします。

県会議員 谷口 登

同窓会の皆さんが、会長さん初め役員の方を先頭に、伝統ある母校の発展の為に懸命の努力をされていることに心から敬意を表します。

在校当時を思い出し、その一端にふれ、ごあいさつを申し上げます。私は昭和二十二年終戦直後の教育改革が実施された年、東筑摩農学校併設中学三年に編入入学いたしました。その後、桔梗原高等学校となり塩尻高校となりました。食糧が極度に不足していた時代、農業に、農業生産に意欲をもって学んだことを覚えております。自転車もなく、今井から広丘の駅まで約五Km一時間かかって下駄ばき

で歩き、広丘の駅から塩尻駅までを汽車で通うという毎日でした。農事当番の夜、学校の農園の果物をこっそり失けいしたこともあり、なつかしい思い出です。

今、農業情勢が、ますます多難の時期をむかえており、塩尻高校の農業科についても縮少の動きもあります。母校の伝統を守るといふことで相談し乍ら対処していきたいと思っております。母校の一層の発展を祈ってごあいさついたします。

## 同窓塩尻市議會議員

(順不同)

- 議長 三沢一夫 (高校3回卒)
- 副議長 岩垂 武 (高校5回卒)
- 議員 篠宮義典 (2回卒)
- 白木俊嗣 (16回卒)
- 笠原和晃 (3回卒)
- 中原輝明 (4回卒)
- 小松康朔 (4回卒)
- 上條小晴 (3回卒)
- 荒川 正 (6回卒)
- 下平多喜男 (東農26回卒)
- 赤羽宣治 (東農34回卒)

# 同窓会事業計画

## 一、総会の開催

毎年九月第一日曜日（母校文化祭の一般公開日）に開催され各支部より役員・会員が多数出席し事業計画・決算予算案の審議が行われる。遠くは東京支部・愛知県支部からも代表の方が毎年ご出席をいただいております。

昨年は特に役員改選の年であり新役員は次の様に決定致しました。



挨拶する小松前会長

(桔梗会館にて)

- 会長 吉江 俊 (塩尻支部)
- 副会長 上條弥太郎 (朝日)
- 滝沢八重子 (大門)
- 中島みゆき (片丘)
- 藤松謙一 (大門支部)
- 上條 博男 (宗賀)

## 二、女子部研集会の開催

- 吉江登志郎 (内田)
- 渡辺 悦子 (三岳)
- 遠藤 要 (小野)
- 赤羽 宣治 (市 議)
- 青柳美喜人 (大門支部)
- 藤森 茂孝 (広丘)

十一月の下旬日曜日には女子部主催の観光バスによる研修会を開催致します。今年は第三回となり参加者も年々増加、今年はバス二台とか、一泊での出る状況。一回目は安曇野穂高温泉、昨年は蓼科中央高原へ、さて今年を御期待下さい。申し込みは十一月に入ったら各支部へ申し出下さい。

## 三、支部対抗ソフトボール大会の開催

この大会も六回目となり年々参加チームも増加、七月下旬の日曜日母校グラウンドにおいて実施、昨年は野球部が北信越大会初出場とあって一層力が入ったようであり物心両面に渡り協力にこの場を



女子部研修会 (途中車山高原にて)

かりて厚く御礼申し上げます。大会後桔梗会館において行われた親睦会でのビールも新記録でした。

## 四、財団法人・桔梗会、が主催する勤労体験学習演習 林整備作業の実施

同窓会では東農以来三〇ヘクタールの山林を管理しております。この山林を利用して毎年入学して一ヶ月余の一年生と職員四〇〇名が手入れに五月中旬にかけます。行帰りはバスで用具とヘルメットは学校が用意する。場所はみどり湖の近く、山林入口は中央自動車道長野線のボックスカルバートをくぐって入山、草を背負い学校まで歩いた方には時代の変化を感じ

させます。それにしても生徒にとっては生まれて初めての体験、昼には豚汁を用意、クラスごとに分かれての昼食となる。



学校林作業 (昼食)

## 五、桔梗会館の運営と地域振興事業

七十周年記念事業として同窓会員の多額の御寄付により建設した桔梗会館は会員の親睦はもちろん地域文化活動の拠点として多くの方々に利用されております。同窓会員の使用料は無料、同級会は実費にて利用できる様専門の調理師が常駐してお世話致します。お気軽に御利用下さい。申し込みはTEL〇二六三―五二―四四〇九(桔梗会館)又は五二―一〇〇一五(塩尻高校同窓会事務局)

### 六、同窓会支部組織強化事業の推進

本会は県内外に五十二の支部を有し、支部長を初め役員組織づくりに取組んでまいりました。そのため多額の支部助成費を計上した結果各地の支部で総会、役員会が年一回以上開催される様になり、支部活動も盛んに行われるようになりました。この会報の発行も支部組織を通じ配布が可能になったことから創刊することに昨年の総会において決定されたものです。

### 七、職業科学科再編についての学習会の開催

このことにつきましては会長・学校長・三沢県議を初め投稿をいただいた関係各位の御挨拶の中にふれられております通り平成三年より九年にかけての生徒の急減期を迎え県下職業教育、特に農業教育が大きく変わろうとしております。そうした中で同窓会としても学習を深め新しい農業教育を考える時期となっております。社会産業構造の変化に伴い職業教育も変化せざるをえないのがその実態であります。昨年はP.T.A・同窓会

正副会長及び学校長を初め関係職員との同行のもと村山前教育長を県庁にたずね学習会を開催、御指導をいただいております。



学習会後知事を訪問（知事室にて）

## 支部だより

大門支部 藤松謙（12年卒）

同窓会長から支部だよりの要請がありました。サテ困りました。みなさんに自慢する程の活動も無く、それに大門支部の場合結成されてまだ六年程度の経過であり、会員の完全な把握もできておりません。大体大門支部はかつて塩尻支部の中にあつたのですが、同窓会七〇周年の時大事業のために急

遽街の中心を流れる田川を境に大門独自の行動で仕事を進め、結果的には相当な成果を治めました。このことが起因となり、当時の会長塩原俊治さんのバックアップにより大門支部の結成となり、そして組織作りに入りました。ご承知のように大門は番町ごとに区制が敷かれておりますので各番町に委員を置きました。その後昭和六二年春婦人部を結成しましたが、婦人部の役員も委員にならない番町ごとに置き委員との連携プレーにより会員との連絡にあたることになっております。さて支部の活動状況ですが、学校の玄関口にある大門支部ですので、その活躍も他支部の模範にならなければと思

ますが、残念乍らまだ機能は充分ではありません。現在支部の年間の動きは、年に一回の総会、出席者の少ないのが悩みですが、それでも少しずつ増えております。本会主催のイベントソフトボール大会は毎回参加しており、大門支部の特徴は男子女子混成にして勝ちを意識せず、コミュニケーションを大事にしてチーム作りをいたします。秋の婦人部研修旅行昨年は二四回目で蓼科に行きましたが、他支部より毎回大勢の参加があり

喜んでいきます。さて私達の同窓会もそろそろ八〇周年を迎えるわけですが、大門支部も外の支部と一味違った支部作りをと考えており、それには地域の関係上、出入の激しい支部ですので先ず会員の完全な把握をし活性化をはかることがこれからの課題であると思

朝日支部長 上條弥太郎（21年卒）

当支部は塩尻市近郊に位置し、農村の担い手育成としての場とした、旧東農、旧塩尻高女時代から多くの子弟が通学し現在でも54支部の中でも生徒数は上位を占めております。

しかし支部としてはここ10数年活動が停滞して居りましたが、去る61年本会からの強い要請と協力があり、事務局関係者の努力により組織の再編成が行われ、現在では五八〇名の登録会員を擁するに至りました。







# 支部だより



昨年十一月の定期総会には本校出身の三沢光広県議を講師に招き「今後の農村の展望」と題して講演会も併せて行い約40名の出席者を得て盛会裡に終了致しました。

当面の支部活動としては、  
 ・親睦スポーツ大会の開催  
 ・本会親睦行事への参加  
 ・講演会等文化事業の開催  
 (本校出身者の講師により)  
 等を計画し今後も会員相互の親睦を図りつつ進めて参ります。

## 北小野支部

北小野支部長 金井秀二郎(22年卒)  
 北小野支部の会員は現在百六十名前後と思われませんが転入転出等移動があるため適確な人数は把握できておりません。支部の行事としては、総会及び本会行事への参加等ですが年令も若年層から老年層まで開きがあり、また連絡の不徹底な面もあって参加人員も非常に少ないの現状です。  
 しかし、記念事業等の執行に際しては協力的で七十周年記念事業の同窓会館の建設、また同会館の法人化に伴う基金募金に際しても

百五十数名の会員の皆さんのご理解とご協力により初期の目的を達成することができました。

同窓会組織強化の一環として昭和六十二年より女子部が設けられ当支部も三名の方から役員として協力して頂いております。

今後当支部といたしましても役員組織の強化をはかり充実した支部にしたいと考えておりますので皆さんのご理解とご協力の程をお願いいたします。

## 愛知県支部

愛知県支部 石川俊行(22年卒)  
 梅の花も咲き終わり、桜の花の話も出はじめている南の国、愛知県支部の近況を報告します。  
 愛知県支部は、東農三十四回卒の山田昭治支部長をはじめ百余名の会員がおります。  
 当支部は、親睦を図り、故郷を離れている者同志が励まし助け合って豊かな生活ができるようにを目標にして活動しています。  
 年一回の支部総会や家族ぐるみの親睦会は、会員の交流がより深まり、心あたたまる会になってい

ます。

特に、ここ数年来の恒例となっている四月下旬の「いちご狩り」は、会員はもとより会員の家族も多数参加し、家族間の交流を深め



会長吉江 挨拶

たり、採りたいいちごはそれぞれの家庭でジャム等になり、家庭の味も楽しめるといふことで、大変好評を博しています。

また、行事の後に催される会食になりますと、故郷の「塩尻弁」がポンポン飛び交い、「校歌」を歌う頃には、何十年という歳月を感じさせない程会員一同若がえり昔に戻ります。卒業年度は違っても、同じ学舎で過ごしたという同窓意識が、心をついにしてくれ

行政の要職にいる人、教育現場の人、文化面で活躍する人、企業

の経営者、会社員、家庭の主婦等、それぞれの立場や環境は異なっているだけ、強い絆で結ばれるの

た惜しいことに、当支部の平均年齢が四十才を越えるという現状で、それがさびしく思われます。若い同窓の方で、県外で活躍してみようと思われの方がありません。尚、愛知県に現在在住しているが支部について知らず、まだ入会していない方がありましたら、お知らせください。

(〇五六七六一〇一五〇 石川)  
 また、故郷の青果物を名古屋市中心中央卸売市場に出荷されたりして、中央卸売市場へこられる機会がありましたら、支部長が経営する「アルプス青果」へもお寄りください。そして、故郷の近況等お話しください。  
 同窓生皆様のますますのご発展を祈念して、筆をおかせていただきます。



支部だより

昨年十一月の定期総会には本校出身の三沢光広県議を講師に招き「今後の農村の展望」と題して講演会も併せて行い約40名の出席者を得て盛會裡に終了致しました。

当面の支部活動としては、  
・親睦スポーツ大会の開催  
・本会親睦行事への参加  
・講演会等文化事業の開催  
(本校出身者の講師により)  
等を計画し今後とも会員相互の親睦を図りつつ進めて参ります。

北小野支部

北小野支部長 金井秀二郎(22年卒)

北小野支部の会員は現在百六十名前後と思われませんが転入転出等移動があるため適確な人数は把握できておりません。支部の行事としては、総会及び本会行事への参加等ですが年令も若年層から老年層まで開きがあり、また連絡の不徹底な面もあって参加人員も非常に少ないの現状です。

しかし、記念事業等の執行に際しては協力的で七十周年記念事業の同窓会館の建設、また同会館の法人化に伴う基金募金に際しても

百五十数名の会員の皆さんのご理解と協力により初期の目的を達成することができました。

同窓会組織強化の一環として昭和六十二年より女子部が設けられ当支部も三名の方から役員として協力して頂いております。

今後当支部といたしましても役員組織の強化をはかり充実した支部にしたいと考えておりますので皆さんのご理解とご協力の程をお願いいたします。

愛知県支部

愛知県支部 石川俊行(22年卒)

梅の花も咲き終わり、桜の花の話も出はじめている南の国、愛知県支部の近況を報告します。

愛知県支部は、東農三十四回卒の山田昭治支部長をはじめ百余名の会員がおります。

当支部は、親睦を図り、故郷を離れている者同志が励まし助け合って豊かな生活ができるようを目標にして活動しています。

年一回の支部総会や家族ぐるみの親睦会は、会員の交流がより深まり、心あたたまる会になってい

ます。

特に、ここ数年来の恒例となっている四月下旬の「いちご狩り」は、会員はもとより会員の家族も多数参加し、家族間の交流を深め



長江吉 挨拶する

たり、採りたいいちごはそれぞれの家庭でジャム等になり、家庭の味も楽しめるといふことで、大変好評を博しています。

また、行事の後に催される会食になりますと、故郷の「塩尻弁」がボンボン飛び交い、「校歌」を歌う頃には、何十年という歳月を感じさせない程会員一同若がり昔に戻ります。卒業年度は違っても、同じ学舎で過ごしたという同窓意識が、心をついにしてくれ

れます。行政の要職にいる人、教育現場の人、文化面で活躍する人、企業

の経営者、会社員、家庭の主婦等、それぞれの立場や環境は異なっているだけ、強い絆で結ばれるの

ただ惜しいことに、当支部の平均年齢が四十才を越えるという現状で、それがさびしく思われます。若い同窓の方で、県外で活躍してみようとされる方がありましたら、どうぞ愛知県へおいでください。尚、愛知県に現在在住しているが支部について知らず、まだ入会していない方がありましたら、お知らせください。

(〇五六七六一五〇一五〇 石川)  
また、故郷の青果物を名古屋市中心卸売市場に出荷されたりして、中央卸売市場へこられる機会がありましたら、支部長が経営する「アルプス青果」へもお寄りください。そして、故郷の近況等お話しください。  
同窓生皆様のますますのご発展を祈念して、筆をおかせていただきます。





### 支部だより

東京支部の現況について

東京支部長 木塚隆美 (26年卒)

昭和四十六年から東京支部の事務局を命ぜられて一昨年まで十五年間勤めて参りましたところ、今度は支部長をやれとの先輩方の命令により六十二年度秋の総会で支部長をお引受けした次第です。

振り返ってみますと、私が上京したのは昭和二十六年ですから、その頃から三十年代の前半ぐらいが東京支部の全盛期ではなかったかと思えます。母校との結びつき、先輩後輩の結びつきがしっかりしており総会への出席者も多かった様に思います。その総会ですが、私が事務局を担当する様になって一番骨の折れたのは出席者をいかにふやすかという事でした。まず名簿の整理から始めなければならず、これが又、大仕事で根気のいる作業でしたがようやく六百ぐらいの把握が出来まして、ここ二年の総会には六十名をこえるぐらいの出席にふえて参りましたが、何とか百人の舞台に乗せたいのが目下の目標でございます。まだまだ名簿から落ちて

が多く、特に若い人たちの掘り起こしが進んでおりません。他の同窓会の話も聞いても悩みは同じ様で、いかにして若い人たちを引きつけるかという事の方法が必要です。それにはそれなりの魅力が必要で、その目玉となるものを選定に苦慮しております。幸い若い人たちが何人か組織作りに協力



東京支部総会

していただける気運が出て参りました事は非常に心強く思っております。

同窓会は宗教団体、営利団体、政治団体といったような同一の思想・目的を持った結社と違い、ただ同じ学校を卒業したというだけの結びつきであり、一致団結という面では難しい面があります。しかしながら、同窓会の存続は

おろそかには出来ないと思えます。したがって、昨年の総会では、まず組織の強化を第一に取り上げ、規約の整備をし、役員の権限責任を明確にし、より多くの参画を計るため、出席者全員役員に就任していただきました。成果は急に上がるものではありません。会員の皆様方のコンセンサスを得ながら、一歩でも二歩でも前進をモットーに、息の長い活動を続けて参りたいと思っております。

### 想い出

矢澤 勇 (6年卒)

あれから六十余年、将に波乱と激動の時代であった。その中で私にとつてなつかしい想い出の一つは東農時代である。世界大恐慌で不景風の吹き出した昭和三年に進学したのだった。其の頃の校舎は木造二階建て、今の市役所の処にあつて今尚長い歴史を秘めて聳えたつヒマラヤ杉や、校舎前にあつた枝垂櫻、そのそばに昭和四十八年に建立した「東筑摩農学校跡」の記念碑等を眺める時、言い知れない懐かしい想い出が湧いて

来る。当時母校の周辺は勿論、今の中央通も住家は点在する程度で、殆ど桑畑だった。今にして思えば実に隔世の感一入である。農の字を稲穂であしらつた丸い校章に白線二本の学生帽、五つ釦の小倉織の服、白い鼻緒のホウバ下駄、これが平常の生徒の服装であつた。当時は進学率は極めて低く、又経済的な制約等で松本の学校への進学は尚更であつた。そんな連中の一部からは、いも学校と卑下されたものだったが、我々は馬耳東風、母校の校風である質実剛健の精神を誇りに勉学に、農場実習にといしんだものだった。そして全部の収穫が済むと毎年収穫祝が行われ、自分達の飼育した豚、収穫した米や野菜で作つた豚汁や赤飯に舌鼓を打ち全校生徒で楽しい一時を過ごしたものだ。

当校でも御多聞に洩れず先生のあだ名が幾つかあつた。遠藤勸三郎校長は眼をパチクリさせるので電気、普作の上条先生は規律正しいので直角、数学の溝口先生は始業ベルがなつてる中に教室に現れるのでポンプ、国語の橋倉先生は声がかかると鼻にかかると、村先生はペポ、体育の酒井先生は小柄で軽快なのでミソツチヨ、ま

だ他にあった筈だがこの位で。まだまだ想い出は盡きないが紙面に制約があるようなのでこの位で責を果たさせて頂くことにする。

### 思い出

二木 三郎 (14年卒)

昭和14年に学窓を立ち、はや五十年の歳月が流れ記憶も定かでないこの頃である。既に満州事変が起こり日中・太平洋と続く十五年戦争の最中であつた。

昭和五年生糸相場の大暴落の打撃は農村恐慌を招き小作争議の続発となり、「行き詰まる農村を救う道は満州移民しかない」が県民の合言葉ともなつた。農村を農業を真に理解し、いかなる困難にも打ち勝つ精神、頭脳、体力を養うべく教育を受けながら長男はとも角二三男は農以外の職を選ぶことも致し方のない時であつた。

我々を迎えてくれた校門の桜、行き帰り奉安殿への敬礼、松本の練兵場での演習、収穫祭に英霊の祭壇を設けての礼拝、戦場での生々しい品の展示に心を引き締めたこと。冬の兎狩り、選手の壮行を駅頭で盛大にやったこと、ある日突然西福寺へ籠つたこと、友と行き先をしみじみ語つたことなど

思い出は懐かしく尽きない。着物に雪袴姿で鋏を手に額に汗し黙々と精魂込めて大地を耕したことなど培われた根性は後の人生を切り開く上で血となり肉となつたことを思わずにはいられない。

### なつかしい旧東農

#### 校歌におもう

山下吉右工門 (34回卒)

戦の場の跡古りて、駅路の煙いや繁き……私は、この旧東農校歌を今も酒を飲むと時折唄うことがあります。勉強はそっちのけで、勤勞奉仕と軍事教練に明けくれた終戦直前の三年間の学校生活は、余りにもみじめだったので、遠い昔の出来ごとにしてしまおうと努めてきました。しかしこの旧東農校歌を酒を飲んだとき唄うことは、私の青春であり六十の歳を数えるようになった今でも私の胸を熱くさせ、恩師のこと、友達のこ

と、食べるものなかつた下宿での生活のこと、そして遠く北海道へ授農部隊として渡北したことなど想い出させ目に熱いものさえ感じさせます。 嗚呼鉢伏の峯の雪……先日厄除けで牛伏寺へお参りしましたが、

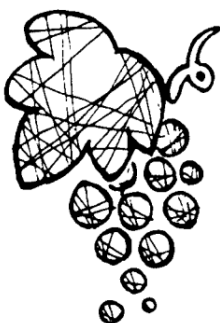
目の前の昔と変わらぬ鉢伏山を見て胸をつまらせました。卒業してから四十有余年がたち世の中は大きく変わりました。仕事の関係で旧東農校舎の跡地に立つことがありますが、今も残っている桜の古木を眺め下宿が近くでしたので夕暮に美しく咲き乱れた花の下にねころんだ過ぎ去つた青春を想う時があります。とりて磨かむ業や何あゝ阿礼野にとぶ螢……我が母校につどいて学ぶ若者に真理の探究にまっしぐらであれと願いながら、いつまでも若々しく健康であつて、心の中に生きつづけさせそして唄いつづけたい旧東農校歌です。

### 思い出

中島 勝司 (7年卒)

第二十回の卒業の中島勝司です。私が会長になつたのが昭和四十年でした。第一回卒業生から十回までの先輩が初代校長神戸昌平先生の胸像を学校前に建立するからとの話があり上條君雄 (三回卒業)さんが先になり寄付金を集め建立しお祝に参列した昭和四十一年前会長関沢敏美 (第十七回卒当時長野県会代表)さんから金を心配するから同窓会館を建てるではないかと話があつたが敷地がないので

学校の中へと校長先生にお願いして野球バックネットの西側に位置をきめて二階を百人位総会が出来るように常は生徒の合宿に階下は運動部室とシャワー室、炊事室に運動選手の利用出来るように建築した当初は都合よく総会も行いましたが段々生徒に占領され、又教室で総会をするようになった。近く体育館の敷地にするので壊すとのこと、農学校は最初今の大門商店街中央通り塩尻郵便局南に平屋であり学校前に書店一軒だけ、それが段々おわれて今の塩尻市役所の所に二階建て移り現在の所へと変わった。市役所新築した時花村政温市長 (第八回卒)にたのんで大きな庭石に自筆で農学校跡ときざみ何時までも思い出になるように役所の入口に頑張っている。



### 思いのままに

北小野 神戸靖子 (27年卒)

久しぶりに同窓会館での会合に出席する機会がありました。二階の会議室に参りました。

歴代の校長先生並びに同窓会長等の御写真が一堂に掲げられてあり学生時代の思い出、又なつかしい友の顔が入交じり感無量でした。さて昭和六十二年に女子役員会で協議の結果女子部を結成する事に決まりました。早速秋には穂高町で研修会を行い引続き男女混成チームによるソフトボール大会を母校のグラウンドをお借りして行う等会員の親睦を深める事ができスタートは好調でした。

六十三年の秋には蓼科方面への研修会を行い昔なつかしい友との再会、又年代は違っても母校を想う心は皆同じ……盛沢山の余興に楽しい一日を過ごす事ができました。

これからはどんな行事をするのにも皆様の御理解と御協力がなくては、どうにもなりません。

女子部の発展のために皆さん力を合わせて頑張ろうではありませんか。「ふるさと」は遠くにありて

思うもの「暇をみつめて同窓会館に立寄ってみませんか。学生時代を思い出し若き血潮がみなぎってまいります。

三岳支部長 渡辺悦子 (26年卒)

最近ある団体旅行で、高女当時の三年先輩に四十年ぶりに出逢い懐かしさのあまり話はずきなかつた。戦中の苦難と忍従の中、旧制女学校に入学、上級生の殆どが学徒動員で工場などへ、残された一・二年生は短縮授業と勤労奉仕の明けくれでした。八月終戦となり、やがて全校生徒が戻った学び舎は、高女生としての姿勢も正しく、日毎はもとより、学芸会、音楽会、クラブ活動等にも上下級生が一つに、熱意に燃え、感動し、充実した女学生生活は、当時の校歌の教えと共に、温くはぐくみ、誇りを持って進んだ尊い思い出となりました。時が移り変わり、学制改革施行のもとに、学校が統合され、校名も変わり、両校の伝統をもとに当時の先生方、生徒会をはじめ、生徒一同も大変苦慮し、組織がなされ発展して参ったのが、現在の塩尻高等学校の基なのです。

激動と混乱の昭和の御代に生まれ育ち、数多くの体験は貴重なものとして心内に刻み、今平成の新年を迎えました。懐かしい過去が美しいもののみ残っていることが幸いです。同窓のご先輩(ご兄弟)方々と共に会の発展に力を添えたいと思いつつ。

大門支部 古屋康子 (18年卒)

この度、長野県塩尻高等学校同窓会会報を創刊されますことは、誠に喜ばしい限りでございます。

歴史と伝統のある塩尻高校の門を巣立った同窓生は社会の各分野で活躍され、地域への貢献の一端をになつております。平成三年には母校も八十周年を迎え、記念の一大事業が行われますが、輝かしい歴史に新たな一頁がかぞえられます様、尚一層のご活躍をお願い致します。

同窓会では各大会、親睦会を行っております。女子部では研修旅行がとて好評ですが、日頃味わえない心の触れ合いは、友情を深め、同窓会の良さと親睦の輪を広げることが出来ました。

文化・経済・産業等、めまぐるしい程社会の変貌する時代ですが、多くの皆様とのふれあいの中で、勉強させられ、目を開くことも、しばしばです。その意味でも、こ

の度の会報は意味深いものとなりますことを、期待し、楽しみにしております。

最後に、会長さんをはじめとして、事務局の皆様へ感謝し、同窓会の限らない発展をお祈りいたしまして、ご挨拶と致します。

### 週休二日制に思う

吉江登志郎 (14年卒)

平成元年二月より、郵便局、銀行等、金融機関は週休二日制が実施になりました。官庁も今年から第二・第四土曜日が閉庁に踏みきりました。今迄先行していた郵便局、銀行等金融機関は完全週休二日制になり、官庁も隔週、週休二日制の二本となります。一般社会も、学校も週休二日制を迎える日が確実に近づきつつあります。戦時中、月月火水木金とわきめもふらず、せせせとお国のために働いた苦勞を思い出します。又戦後の復興に増産に土曜日もなく励んできたのです。日本人の勤勉、努力によりGNP世界第二位をほこる経済大国に成長しました。自動車・TV・半導体等の工業製品輸出増加で貿易黒字、一方アメリカは貿易の赤字の増大が日本に対し

農産物、牛肉・オレンジ等の自由化を迫ってきた理由です。日本人は働蜂と悪口をいわれて政府は労働時間短縮にのりだした理由です。当面、気にかかることは土曜閉庁で行政サービスが低下しないかという点だ。中小企業では隔週の二日制も実現していないところが多い。公務員が休む、ということに、わだかまりがないわけではないが、サービスの水準が落ちないよう工夫努力が必要だと思ふ。同時に人々が生活の質の充実に関心を深めるから行政も対応が欠かせないだろう。土曜日も開き続けるという公的機関には美術館や博物館がある。市民の休日の過ごし方には勿論千差万別だが、こうした場所で学び楽しみ憩う人は多いとおもふ。扱て学校の週休二日制の問題もこれから話題になってくるとおもわれる。かつて試行的に五日制と五日間月火水木金と授業土曜日休み教師は土曜日職員会、講習会、研究会等をするという方法をやり、一般社会、父母から児童生徒の生活指導、塾がよい、非行等の問題がおこり成果を上げることなく土曜休みの問題は終わってしまいました。

週休二日制を学校に導入するに

あたっては、文部省、教師、父母、三者一体となって児童生徒のため大きな問題として、研究討議に時間をかけてほしい。  
特に教師は教育当事者として問題を提起して週休二日制が学校教育にプラスになるよう願ってやまないものである。

### 七十周年記念の追想など

同窓会顧問 塩原穂並(8年卒)

歳月の経つのは早いもので七十周年記念事業を実施してから既に六年余が過ぎました。当初の計画は名簿と記念誌のみであったものが、実行委員会の熱心な討議を重ねるに従って、校歌碑、ブロンズ像、同窓会館、記念式典等が追加されましたが、会員の皆様の尽力によってこれらの大事業が達成されました。

さて現在は記念誌を少数残すのみで名簿は全部消化され、前庭に鎮座しておる歌碑ブロンズ像は建立当時より次第に貫禄を増しつつあるように感じられます。又同窓会館は財団法人格を取得し公共性を加味した施設として、建設の目的を果たす可く健全な運営がなされておる状況を報告することが出来まますことは会員の一人として喜

びに堪えません。

次に本会の今後の発展の為には募金の際の接触ばかりでなく、平素折々に母校の近況、会員の動向等の情報の伝達の必要性を本事業遂行中に痛感致しました。

幸い此のたび執行部の肝煎りにより同窓会報を創刊することになりました。この会報が母校と同窓会並びに会員相互の連帯感を深めるために役立つことを心から祈念致します。

### よき友東農32回卒業生

塩原松千代(18年卒)

古人曰く、ゆく河の流れは絶えずしてしかもとの水にあらざると世は平成の時代となった。私達の東農へ入学したのは半世紀前である。今変貌盡きることを知らぬ枯梗ヶ原に立つて松林と、かやの生い茂っていた当時を回顧すれば感無量である。

さてこの間七十周年記念事業をしたと思つたら八十周年が来る。七十周年は大事業だった。土地購入、会館建設、記念誌名簿の発行、歌碑建立など。苦しかったことを二、三あげてみる。会長と募金説明にいったら悪態をつかれたこと。訪問の日時を再三確認して出かけ

たが雲がくれた支部長。会館建前の日は雪だった。その骨組のなつた建物の片隅で永原顧問、会長と私の三人でイカの尾っぽで御みきを戴いた。この頃が金がなくて一番苦しいドン底だった。

募金には永原顧問と松本、木曾、安曇、小野、長野、東京などよくまわつた。何処へ行っても同級生がいて、地区の中心的存在であった。趣旨に賛成協力してくれた。

郷原の白井君、寿の花村君、神木の倉科君、山辺の原君、宮田君、安曇の青木君、並柳の横山君などに特に推進力になってくれた。よき友理解者がいたからこそ七十周年の大事業ができたと思う。農事の忙しい中、また勤めの忙しい中募金活動に精を出してくれたのはありがたいことである。昭和十六年より十九年まで、戦いの最も激しい時代に苦楽を共にして勉強したよき友である。七十周年記念事業によって建立された同窓会館は心のよりどころとして活用されている。



### 戦時中の東農

監事 青柳美喜人(21年卒)

平成三年には母校創立八十年を迎えるに至り、今更ながら時代の變遷、幾多の波乱と戦争を乗り越え今日の隆盛をみている事はまことに感無量なるものがあります。

私達は大東亜戦争真只中の十八年の入学であり、戦雲急を告げて居り、学校教育とはほど遠い食糧増産、勤勞奉仕、開懇等の毎日であり、大紹発令に始り八紘一字の大精神のもと学徒動員等、ひたすら必勝を信じ配属将校による軍事教練で臨戦体制一色でありました。当時の岩瀬義夫校長も常に草色の国防服であり生徒も同様に国防服で戦斗帽に白線二本、足には脚絆に高下駄であり、東農の制服制帽の期間は一年程もなかった。学徒動員で長期の北海道援農隊、出征兵士の家の援農、国鉄線路に沿った九里巾の開懇、その松林の中の軍需物資集積所動員、大小屋の田川製材所での松根油採取等々。今だに忘れない思い出である。

る者もあり私もその一人として海軍航空隊に入隊した。入隊の時、岩瀬校長を初め在校生の日の丸の寄せ書、千人針等今も鮮明に脳裏に刻まれている。斯くて国を挙げたの戦時教育のもと戦線は東洋一帯に拡大して行った訳である。学業なかばにして学徒動員の続くうち八月十五日の玉音放送に至り驚き、悲しみ、放心虚脱の日々が続いた後将来の灯も見出せぬまま青春の学窓を後にしたものでした。その母校跡は市役所に変わり庁舎の片隅には当時登下校の際、必ず深々と拝礼した奉安殿が昔そのままでの姿で、又前庭にはあの見事な花を咲かせた枝垂桜、型の良い赤松の老木、小使室の近くで見かけたヒマラヤ杉も見事な雄姿となり、それぞれ面影を残して居るのが何よりも懐かしい。温故知新、明治大正、そして戦前戦後の激動期に思いをはせ、よくぞ此処まで隆盛発展を遂げた母校に、歴代校長初め多くの教諭、関係役員に深甚なる敬意を表し、創立八十年を迎えんとする母校に益々の栄光を願うものであります。

#### 創立八十周年によせて

塩尻支部 坪井文子(23年卒)

平成という新しい時代を迎え、我が母校も創立八十周年になろうとしています。これに先立ち、私共卒業生の、かねてからの念願でありました同窓会館も、立派に出来あがりしました。この同窓会館が新しい時代にマッチした形で、ひろく文化活動、各種サークル活動にと活発に活用されることを切に念願するものであります。さて、今日、「現代の子供は、挨拶もろくにできない」と、大人社会では一般に言われますが、一昨年のあの夏の日、同窓会館を利用していた時のことでした。多分、野球部の生徒さん達と思われませんが、十名ほどが気軽に同窓会館に入って来て元気よく「こんにちは」と私達全員にむかい挨拶をしたのです。私達の方があわてて「こんにちは」と挨拶を返したのであります。「現代の子供達もまんざらではないな、やがて塩尻高校を後にして、実社会において立派に挨拶が出来た社会人になっていくのだなあ」とひそかに胸の熱くなるのをおぼえたのは私だけではないと思います。私達も、この生徒達と同じに明るく挨拶をかわし気軽に同窓会館を訪れると共に、塩尻高校の行事であります同窓会にはぜひ

ひ参加していただき同窓会の輪を大きく広げるとともに、塩尻高校の限らない発展を望みたいと思います。

#### 日本農業よ！どこへ

南安曇農業改良普及所

北原光治(29年卒)

牛肉、オレンジに続き米の自由化が論議、さらには、米価の値下げなど農業は厳しく、我国農業の先行きが不安に思えてならない。

地球人の一員として貿易の自由化は、島国で孤立しやうい日本人の生きる道でもある。

しかし輸出にたより過ぎた我国の産業の犠牲として、その結果が過疎化や農業生産の停滞と言う事態になったと見るのが一般的ではないだろうか。

戦後荒廃した国土から、高度成長により、これまでに発展させた礎は食糧生産の安定であったことをリーダー達は忘れたのだろうか。食糧自給率が三〇%と言われ、さらに低下すると考えた時、チェルノブイリ級の原発事故が相手国に発声した事を思うと恐ろしい限りである。

さて、我国の農業を振り返ると、農産物価格は、ECや米国に



比べて品物にもよるが三〜五倍も高いと言われ、コストダウンを迫られているのが実情である。

一戸当たりの耕地から見ても、日本は1ha、ECは1.5ha、米国は1.5ha単位の農業から単純に比較した時、日本農業の存在価値は見当たらない。しかし、和牛牛肉は高品質で競争力があると言われ、又鶏卵は国際価格に近いなど、一概に我国農業はダメと結論されては早合点である。

一方農業生産の状況から見ると低米価、若い農業者の流失など米に対する投資意欲が失われ、生産性が落ち逆にコストアップの恐れさえ出て来ている。特に稲作の機械利用率が低く、田植機の利用日数が年間三日〜四日と言う農家も多く、生産費中に占める農機具費が三〇〜五〇%にも及んでいる。

これは単に生産費の節約としてだけとらえるのではなく、農地の請負耕作、農地の賃貸借など経営の規模拡大が機械の利用時間を延し、さらに土地基盤の整備や、経営の複合化等により利用効率を高めて行く必要がある。

この他、一〇a当たりの収量の増加など問題は山積しており、このことが達成されなければコスト

ダウンは掛声に終わってしまうのである。兼業農家が何らかの形で中核農家に農地を提供出来るシステムづくりが若者が農業に返り咲き、我が国の農業が世界に互して生ける道標であると共に、国土の保全であり、安全保障になるのである。

### 十周年記念祝賀式の事

広丘支部 永原茂雄(10年卒)

大正九年十一月二十三日本校創立十周年記念祝賀会が協賛会の人々と共に行われました。

時私達は一部三年生、上級生の故、祝賀の会場である三教室を取りはらい、式場作りから何やかやと中心になってはたしました。式場正面には「祝十周年」と大書した額をかかげ、当時の本校の校章である「農に稲穂」である校章をかざりまして、前面の校旗と、大花瓶には大きな桜と梅等の配合もよろしく、中央から四方へは万国旗を張り、見事な会場を作りました。

当日は、午前十時半第一鈴で生徒二百名、卒業生約二百名着席、第二鈴で来賓、協賛会の方々約四百名が着席。式は「君が代」の唱歌で始まり、春日校長の式辞、知事代理柄澤県属の代読、つづいて

安藤部長、倉科郡会議長、近村小学校長代表で塩尻小学校長斉藤節先生、塩尻警察署長高嶋淳造氏、近村村長代表今井村長横山秀一氏、協賛会代表塩尻村長堀内貫一郎氏等の祝辞があり、前校長神戸昌平先生の本校昇格についてのべ祝辞とし、遠方原先生外四名の祝電、又、信濃毎日新聞社記者は、新聞記者代表として本校創立当時紛擾をきわめたる事並びに本校の隆



(第十回までの卒業生により建立された神戸初代校長)

盛になりたる事を述べ祝辞とし、卒業生総代中野憲一氏、在校生総代宮下幸雄君の祝辞が終わって、校歌を合唱し、春日校長先生の閉式の辞、続いて祝賀会が盛大に行われしました。又、当時の大門の町は時ならぬ人出でお祭りさわぎの様になぎやかでした。

式場係の私達は、後片付けを終わり、残酒を御神酒としていただきましたところ、先生にひどくお

こられました事を今も記憶に残っております。

### 小野支部の募金活動

小野支部長 遠藤要(12年卒)

昨年は、母校塩尻高校野球部が長い歴史のなかで、初めて県代表として、六月四日から富山県高岡市で開催された春の北信越高校野球大会に出場を果たすなど、大いに活躍が期待された。

残念ながらこの大会では、日頃の力を発揮できずに敗退したが、これを契機に、今まであまりにも乏しく、恵まれない条件の下でやってきた野球部の活動が少しでも認められ、その活性化のために、寄付金集めをしようということになったのは、まさに画期的なことと思われる。

六月十四日には同窓会役員会、並びに野球部後援会総会が、桔梗会館で相次いで開催され、同窓会各支部に対し、募金についての協力要請が行われた。

小野支部ではこれをうけて、六月十九日午後七時緊急役員会を開催し、十一名の役員が出席して、七月五日を目標期限と定めて、募金活動を展開することになった。各部落の役員は、この二週間の募



金期間にくまなく会員宅を巡回し  
応募会員数百二十三名、総額三十  
八万円の寄付金が集められ、早速  
母校事務局へ届けることができた。

応募者一人平均三千円は、決  
して高額とは言えないかも知れな  
い。しかしこの短期間に、小野地  
区内に在住する同窓会員の、九十  
パーセントを越える人々から協力  
が得られたその陰には、かつて自  
分たちが学んだ母校の、後輩たち  
に対する温かい気持ちがあつたで  
あろうことは想像に難くないし、

また募金の目的が、極めて単純明  
快に受け入れられた為と思われる。  
七月十三日には、野球部後援会  
により、寄付金の中間集約会が開  
かれた。この時点では、およそ七  
十五パーセントの対象から受入れ  
た段階で、募金実績が八百十二万  
九千円（最終的には九百九十六万  
円）とのことであった。

野球部後援会の募金に係わる小  
野支部の活動の一端を紹介した。

### 甲子園への夢

赤羽 宣治 (21年卒)

同窓生として、うれしい事は何  
といつても、母校の発展、在校生  
諸君の活躍である。昨年の春、北  
信越大会に県代表として出場した

野球部の活躍は母校の名前を北信  
越の空にとどろかせた最近の快挙  
であった。この北信越大会出場で  
夏の甲子園も夢でなく、現実的な  
ものとなってきた。夏の大会を前  
にして野球部後援会は活動を強め  
た。又この動きに応じて十一名の  
同窓生市議会議員も正式に同窓生  
市議会議員団を組織し、資金カンパ  
を手伝った。このようにして、母  
校野球部の甲子園への期待が現実  
的なものとなった事は母校の歴史  
で初めての事であると思う。期待  
の夏の大会は上田東に二回戦で負  
けて甲子園への道の険しさを痛感  
したものだ。然し昨年春夏の  
大会を通じて選手達は「俺達やれ  
ばできるんだ。野球も芸術もこれ  
でいいという事はない」という自  
信を持った事と思う。「信工の猛  
練習を手本に、勝つためには練習  
しかない」という吉江監督の言葉  
に応じて今年も選手諸君が母校の  
名誉のために活躍されん事を心か  
ら願うものである。

### 野球部創設四十周年 記念事業の実施

野球部OB会長 関澤治重 (25年卒)

母校に野球部が出来て、四十年

余になる。これを記念して野球部  
OBクラブでは、左記のような記  
念事業を行うことになった。

一、記念誌「四十年のあゆみ」発  
刊。各年度ごとの公式戦の記録や、  
思い出の記など、野球部四十年の  
足跡を記録として残し、又、会員  
(三百七十余名)の名簿を整備す  
るなどの内容で(B五版・二百二  
十余頁・四百五十部)三月上旬に  
発刊する。

#### 二、功労者の表彰

創設以来から昭和三十年代まで  
野球部に御尽力いただいた部長・  
監督の先生方を初め、OBクラブ  
の顧問の方々十数名を、四十周年  
記念祝賀会において表彰する。

#### 三、四十周年記念祝賀会の開催

平成元年三月十九日(日)桔梗  
会館において、平成元年度の総会  
並びに四十周年記念祝賀会を行う。

### 剣道部OB会より

剣道部顧問 滝沢千元

剣道部では、昨年発足した剣道  
部OB会より物心両面の援助をい  
ただいています。

今年度は、女子がインターハイ  
予選の県大会で2位になったこと  
から、塩尻高校剣道部が10年連続  
して北信越大会に出場するという

功績を残すことができました。こ  
れを記念して、OB会より女子用  
の揃いの胴7個を寄贈していただ  
きました。

また、OB会を初め、同窓会よ  
り例年行っている春の県外遠征に  
も、旅費・宿泊費等の援助をいた  
だき厚く御礼申し上げます。

### 編集後記

同窓会報、創刊号の発行に当た  
り原稿の御依頼を申し上げたとこ  
ろ心よく御投稿を賜り厚く御礼申  
し上げます。紙面の関係で失礼な  
取扱いもあるかと思いますがお許  
し下さい。この会報は昨年九月の  
総会の決定により発行致しました。  
配布は支部長を通じて配布致します。  
発行部数は財団法人桔梗会会員名簿  
の二割増と致しました。御手数で  
すがよろしくお願い致します。

